

## 5号機 第1抽気逆止め弁(A)の部品交換について(続報)

平成 19 年 3 月 9 日

### 【今回お知らせする内容】

原因	<p>ガスケット(※1)は、通常、製造業者から直接調達します。しかし、今回は、ガスケットの非アスベスト化の一環で、ガスケットの仕様変更が必要となったため、弁メーカーにガスケットの選定・検討業務を依頼しました。</p> <p>その際に、弁メーカーは、ガスケット取り付け部の内側にあるガスケットはみ出し防止リング(厚さ:2mm)の存在を確認せず、このリングの厚さよりも薄いガスケットを選定しました。</p> <p>当社においても、ガスケットの使用条件等については確認していましたが、寸法については弁メーカーが詳細設計図を所有しており、選定されたガスケットが適切であると考え、結果として適切でない仕様のガスケットを採用しました。</p>
対策	<p>今後、ガスケットの寸法を変更する際は、弁メーカーに、弁の構造を詳細に把握した上で問題ないことを確認するよう指示するとともに、当社においても、ガスケットの厚さ等の寸法が、弁の構造に対して適しているか否かの確認を図面および現場確認によって行うこととしました。</p> <p>なお、当該弁と同様にガスケットの交換を行った他の抽気逆止め弁3弁について、仕様が適切であることを確認するとともに、念のため外観点検を実施し漏えいのないことを確認しました。</p>

### 【これまでにお知らせした内容】

(平成19年2月14日お知らせ済み)

発生号機	5号機(調整運転中)(※2) :改良型沸騰水型、定格電気出力138万キロワット
発生日月日	平成19年2月14日(ガスケット交換を決定した日)
発生時の状況	<p>浜岡原子力発電所5号機(定格電気出力138万キロワット)は、定格熱出力一定運転中(調整運転中)のところ、2月12日午後4時35分頃、タービン建屋2階(放射線管理区域内)の湿分分離加熱器(A)(※3)付近の床面にごく僅かな水たまりがあることをパトロール中の当社社員が発見しました。</p> <p>現場を確認したところ、当該床面の上部に設置されている第1抽気逆止め弁(A)(※4)のボンネットフランジ部から水が滴下(1滴/秒)していることがわかったため、当該フランジ部のボルトの増し締めを行い、水の滴下は止まりました。</p> <p>本日、当該フランジ部に取り付けられているガスケットの仕様が間違っていることがわかったため、部品等の準備が整った後に当該フランジ部のガスケットの交換を行うこととしました。</p> <p>本事象によるプラントの運転への影響はなく、安定運転を継続しております。</p>
今後の予定	部品の準備が整った後に、当該フランジ部のガスケットの交換を行います。ガスケットの交換は、原子炉を停止して行う必要があるため、原子炉停止の日時については、準備が整った段階でお知らせいたします。

放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありません。
お知らせ基準	「表2-2」に該当します。

(平成19年2月21日お知らせ済み)

作業実績	<p>2月17日に原子炉を停止し、翌日、当該フランジ部のガスケットの交換作業を実施しました。その後、19日に原子炉を起動し20日から発電を再開しています。</p> <p>本日、定格熱出力一定運転状態で、交換後の外観点検を行い、当該部から漏えいのないことを確認しました。</p>
------	--

※1:ガスケットとは、フランジ部の継ぎ目に気密性を持たせるために取り付ける部品です。

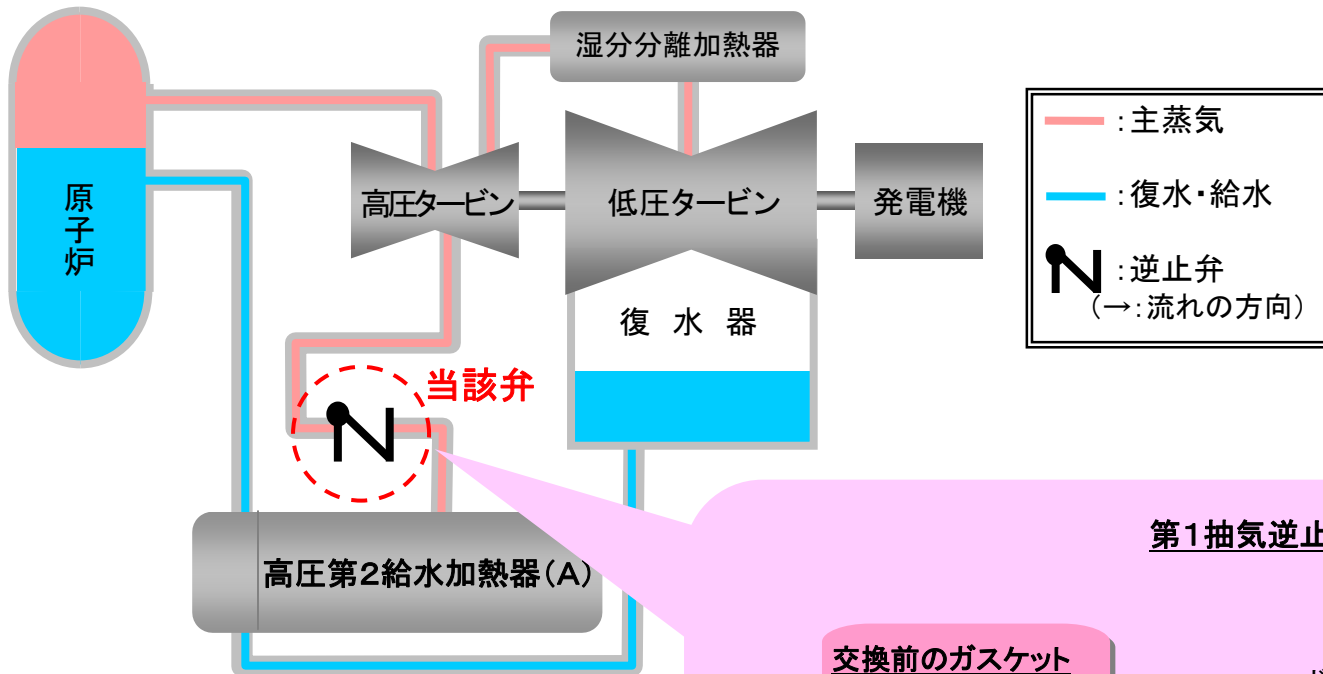
※2:圧カプレート<sup>※1</sup>の設置により、約130万キロワットの出力で定格熱出力一定運転を行っています。

※3:湿分分離加熱器とは、高圧タービンからの排気に含まれる湿分を除去するとともに、プラント熱効率を高めるため低圧タービンへの蒸気を加熱するための機器。5号機には2台設置されています。

※4:抽気逆止め弁とは、タービントリップ時等に抽気(蒸気)が逆流することを防止するために設置されている弁です。  
 抽気はプラントの熱効率向上のために高圧タービンおよび低圧タービンから給水加熱器に供給される蒸気です。

以上

# 浜岡5号機 系統概要図



第1抽気逆止め弁(A)の断面図

